

北九州市環境基本計画の進捗評価まとめ(平成24～27年度)について

◆ 年度別の総合評価の状況

(数値は事業数)

年度	項目	事業数	A:積極的推進	B:一部見直し	C:抜本的見直し	D:廃止・休止
24		68	59 (86.8%)	9 (13.2%)	0	0
25		68	56 (82.4%)	12 (17.6%)	0	0
26		62	50 (80.6%)	12 (19.4%)	0	0
27		60	50 (83.3%)	10 (16.7%)	0	0

○年度別の総合評価のポイント

- 各年度とも、「A:積極的推進」と「B:一部見直し」のみで、「C:抜本的見直し」、「D:廃止・休止」なし
- 4年間を通じて、「A」評価が全体の8割を超えており、環境施策全般として**順調に推進**

○担当課による平成24～27年度までの4年間の総合評価のポイント

- 各政策目標とも、「A:大変順調」と「B:順調」のみで、「C:やや遅れ」、「D:遅れ」なし
- 4年間を通じて、「A」評価が約5割と、各政策目標における各事業は**順調に推進**

◆ 担当課による平成24～27年度までの4年間の総合評価の状況

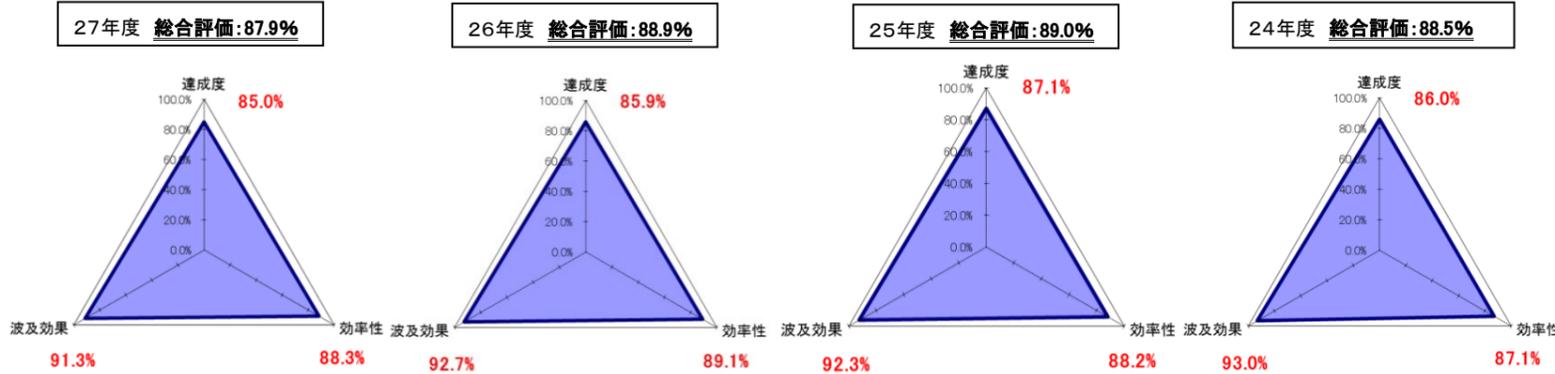
(数値は事業数)

政策目標	A:大変順調	B:順調	C:やや遅れ	D:遅れ
市民環境力の発展	12 (57.1%)	9 (42.9%)	0	0
低炭素社会づくり	9 (40.9%)	13 (59.1%)	0	0
循環型社会づくり	6 (60.0%)	4 (40.0%)	0	0
生物多様性保全	4 (36.4%)	7 (63.6%)	0	0

○年度別の評価項目の評価のポイント

評価項目	ポイント	備考
達成度	4年間を通じて85%以上を維持	若干減少しているものの、4年間を通じて、戦略プロジェクトの各目標を比較的高いレベルで達成している。
波及効果	各年度とも90%以上と、4年間を通じて非常に高い水準を維持	各年度とも、戦略プロジェクト等の取組を通じて、市民やNPO、企業、大学等の積極的な環境活動の広がりにつながっている。
効率性	各年度とも約90%と、4年間を通じて比較的高い水準を維持	各年度とも、まち美化や植樹活動など市民、NPO、ボランティア等と協働して事業を行ったことにより、行政コストの削減が図られている。

◆ 年度別の評価項目に対する評価



◆ 年度別の政策目標に対する評価

年度	政策目標	市民環境力の発展	低炭素社会づくり	循環型社会づくり	生物多様性保全	合計
24		85.3%	91.7%	91.2%	86.4%	88.5%
25		87.2%	90.1%	92.7%	87.5%	89.0%
26		88.6%	87.4%	94.4%	87.9%	88.9%
27		87.5%	85.1%	93.3%	88.2%	87.9%
合計		87.2%	88.6%	92.9%	87.5%	88.6%

○年度別の政策目標の評価のポイント

政策目標	ポイント	備考
市民環境力の持続的な発展	各年度とも85%以上と、比較的高い水準を維持	各年度とも、エコライフステージや、環境首都検定、まち美化啓発事業など、官民一体となった様々な環境への取組を推進した。市民環境力の着実な発展につながっており、今後もさらに広がりをもつ必要がある。
低炭素社会づくりの推進	各年度とも85%以上と、比較的高い水準を維持	他都市に先駆けて低炭素社会づくりに取り組み、近年では、環境モデル都市のフォローアップ結果(国の評価)で6年連続で最高評価を受けたほか、スマートコミュニティ創造事業では、世界の優れたスマートグリッドプロジェクトを表彰する「ISGAN AWARD2014」をアジアで唯一受賞した。
循環型社会づくりの推進	各年度とも90%以上と、非常に高い評価を維持	市政評価で、「ごみの適正処理とリサイクル」が、平成5年度から22年連続で1位、直近では2年連続2位と、市民からの評価も非常に高い。
生物多様性保全の推進	若干ではあるが、年々増加傾向にあり、比較的高い水準を維持	近年の市政評価で、「大気・騒音・水質などの環境保全」は、12位⇒9位⇒7位と上がっているものの、微小粒子状物質(PM2.5)などによる大気汚染をはじめ、環境保全に対する市民の不安が依然高いと考えられるため、引き続き環境保全に対する着実な取り組みが必要。